

各 位

2026 年 9 月 1 日
株式会社インプレス

生成 AI を「超優秀な部下」としてマネジメント。一生使える「仕事の任せ方」が身につく書籍『AI を部下にする技術』を 9 月 1 日に発売

インプレスグループでIT・デザイン関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、生成AIを単なるツールではなく「超優秀な新入社員」としてマネジメントし、業務の成果を飛躍的に高める手法を解説した書籍『AIを部下にする技術 90%の作業を任せて10倍の成果を上げる』を2026年9月1日（火）に発売いたします。



■実務に生かせないAI活用からの脱却

生成AIがビジネスの現場に浸透する一方で、「自分で手直ししないと実務で使えない」「思ったようなクオリティにならない」という課題を抱えるビジネスパーソンが増加しています。これは、AIを従来のITツールや検索エンジンの延長として扱っていることが主な原因です。

多くの企業がAI導入を進める現在、小手先のプロンプトテクニックやツール選びに頼るフェーズは終わり、AIのポテンシャルを最大限に引き出すための「本質的なマネジメントスキル」が社会的に求められています。

■ツールに依存しない、AIへの「仕事の任せ方」を7つの技術で習得

本書は、ボストン コンサルティング グループ（BCG）出身で、数多くの企業のAI導入を支援してきた生成AI専門コンサルタントである西本 匠氏による実践的な解説書です。他書によくあるプロンプトテクニックとは異なり、仮説思考やロジックツリーといったコンサル流の仕事の進め方をベースに、AIを「超優秀な新入社員」として動かすための普遍的な作法を7つの技術に体系化しています。

「期待」「設計」「指示」「フィードバック」といった、一生使える「仕事の任せ方」の基本から、「AIエージェントの活用」「組織全体のAI活用の牽引」「AIを活用した業績向上」といったスキルまでを身につけた「AI活用のリーダー」へとステップアップするための技術を網羅しています。ただAIを使いこなせるようになるだけでなく、今後5年、10年とビジネスシーンで活躍し続けるためのキャリア形成の視点も得られる1冊です。

■本書は以下のような方におすすめです

- ・ AI を活用する同僚との差が開き、「このままでは置いていかれる」と焦りを感じている方
- ・ AI を業務に活用したいが、「何から手をつければよいのか分からない」ため立ち止まってしまう方
- ・ SNS などできまざまなテクニックは見かけるが、「自分の仕事に落とし込めない」ため諦めてしまう方
- ・ AI に何度指示を出し直しても、「期待する答えに近づかない」ため疲弊している方
- ・ AI エージェントに興味はあるが、「難しいうえに暴走が怖い」ため踏み出せずにいる方
- ・ 自分は比較的 AI を使えているが、「どう組織全体に広げ、バラツキを解消すればいいか分からない」ため苦戦している方
- ・ AI で業務を効率化できつつあるも、「部署や全社の業績成長につなげることができていない」ため行き詰まっている方

■紙面イメージ

4-1

フィードバックの重要性

フィードバックを重ね、
成果物の質を上げる

主任・スズキ

AIが出す答えについて、「惜しいな」と思うことがよくあります。「なんか違う」「もっとよくして」と返すと確かに内容は変わりますが、本当によくなっているのか、結局どこに向かっているのか分からなくなってしまいます。

西本

そもそも、AIが1回目で完璧な回答をしてくれることはなかなかありません。ラリーを重ねて精度を引き上げるのが基本ですが、何度やっても改善しないのであれば、あなたのフィードバックの仕方に原因があります。

AIとのラリーが最終的な品質を決める

AIのマネジメントに長けた人は、1回目のアウトプットから完璧を求めません。どれほどの確かな指示を出しても初期の回答には粗が残るため、そこから何度もフィードバックを重ねて精度を上げていくことを前提としています。

筆者のコンサルティングファーム時代の経験でも、早くから質の高い成果を出せる人の最大の共通点は、自ら適切なタイミングで上司にフィードバックをもらいに行く姿勢でした。しかし、AIは人間とは異なり、自発的に確認や相談することなく、指示された内容でどんどん仕事を進める性質があります。だからこそ、**上司であるユーザー側から主体的に「どのタイミングで、どの観点からフィードバックするか」を設計**することが、成果物の最終的な品質を大きく左右するのです。

72

なぜあなたのフィードバックは伝わらないのか

「AIに何度フィードバックしても精度が上がらない」と感じる場合、その原因はAIの性能ではなく、ユーザーのフィードバックの仕方にあります。

フィードバックとは、本来アウトプットに対する問題解決です。何が問題かを定義し、原因を特定し、解決策を提示するという順序を踏まずに、ただ「なんか違う」と返すだけでは的確な修正はできません。この問題解決の順序が崩れていることこそが、AIに意図が伝わらない根本的な原因です。

フィードバックしているのに何も変わらない
「4つのパターン」

機能していないフィードバックには、**図表4-1-1**で示す通り、問題解決の順序が崩れているという共通の4つのパターンが存在します。

図表4-1-1 機能していないフィードバックの4パターン

パターン	状態	欠落している 問題解決ステップ
① 感情でのフィードバック	目に入ったものへの善悪反射による抽象的な否定	問題の定義
② 理想なしのフィードバック	「何をもって正解とするか」の基準が決まっていない	基準の定義
③ 診断なし・処方なしのフィードバック	原因を特定せず、浅い出力に対して「もっと」と返す	原因特定・改善策の決定
④ 全体を見ずに行う部分へのフィードバック	全体を俯瞰せず、1箇所ずつ直す「モグラ叩き」の状態	全体俯瞰・文源理解

1つ目は「感情でのフィードバック」です。「全然ダメ」「なんでこんな簡単なことができないの」といった抽象的な否定をぶつけてしまうパターンです。これでは何がどう問題なのかは一切伝わらず、AIは直すべきポイントを判断できな

73

第4章
新しい一歩で正す
フィードバックの技術

AIを「超優秀な新入社員」として扱うための、7つの技術を解説。要所に対話形式を交え、読者が抱きがちな疑問や不安をコンサルタントである著者が解決しながら進みます。

5-2

Coworkの基本操作

Claude Coworkに仕事を任せてみる

新入社員・タナカ

AIエージェントを実際に動かすと、設定や操作が難しくそうで手が止まってしまう。



西本

身構える必要はありません。AIに「作業場所」となるフォルダを渡し、普段通りの言葉で依頼するだけで、AIが自律的にタスクを処理してくれます。

専用の「作業場所」を用意する

Claude Coworkを使い始めるために必要なのは、パソコン用のClaudeデスクトップアプリと、有料プランのアカウントの2つです。個人利用であれば、月額20ドルのProプランを推奨します。

まずはパソコンのブラウザからClaudeの公式サイト (<https://claude.ai/>) にアクセスして、アカウントの作成と有料プランへのアップグレードを行ってください。その後、同サイトからデスクトップアプリをダウンロードします。アプリにログインすれば準備は完了です。

本書執筆時点の2026年7月現在、Coworkはブラウザ版とスマートフォン版(iOS/Android)のベータ提供が順次始まっています。しかし、本書で解説する、パソコン内のフォルダをAIに直接読み書きさせる使い方が最も安定して機能するのは、デスクトップアプリ版です。こうした理由から、本書の解説はデスクトップアプリの利用を前提として進めていきます。

利用にあたっては、最初にAIエージェントの「作業場所」として、パソコンの中のフォルダを1つ指定する必要があります。Coworkではこれを「プロジェ

クト」と呼びます。プロジェクトを作成すると、AIエージェントはその中のファイルを自ら開いて読み込み、新しく生成したファイルをそこに保存できるようにします。

まずは練習用にプロジェクトを1つ用意しましょう。作成方法は「新規作成」(何もない状態から作る)と「プロジェクトをインポート」(チャット版から移行)「既存のフォルダを使用」(すでにあるフォルダをプロジェクト化する)の3種類がありますが、最初は「新規作成」だけ覚えておけば十分です。

図表5-2-1| Claude Coworkのプロジェクトの作成



アプリを起動して、プロンプト入力欄の下部にある「Cowork」をクリックすると、Coworkを利用できる。プロジェクトを作成するには、「プロジェクト」をクリックする。



プロジェクトの作成が完了すると、このような画面が表示される。

第5章

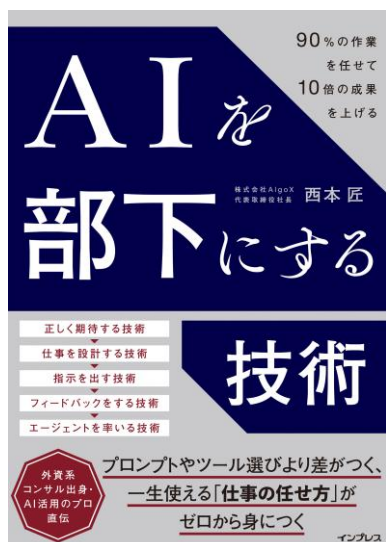
AIエージェントを率いる技術

AIエージェントを動かすための思考法だけでなく、Claude Coworkの実際の利用画面を用いた実践的な操作手順も収録しています。

■本書の構成

- 第1章 AIに正しく“期待”する技術
- 第2章 即戦力になる仕事を“設計”する技術
- 第3章 思い通りに動く“指示”を出す技術
- 第4章 惜しいを一言で正す“フィードバック”の技術
- 第5章 AIエージェントを“率いる”技術
- 第6章 AI活用のリーダーとして“組織を導く”技術
- 第7章 AIを武器に“業績を伸ばす”技術

■書誌情報



書名：AIを部下にする技術 90%の作業を任せて10倍の成果を上げる

著者：西本 匠

発売日：2026年9月1日（火）

ページ数：192ページ

サイズ：A5判

定価：1,980円（本体1,800円＋税10%）

電子版価格：1,980円（本体1,800円＋税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-02434-7

◇Amazonの書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/4295024341/>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1125101128>

◇書影（高解像度）ダウンロード：

<https://dekiru.net/press/502434.jpg>

■著者プロフィール

西本 匠（にしもと たくみ）

株式会社AlgoX（アルゴエックス）代表取締役社長

ボストン コンサルティング グループ（BCG）にて、金融・製造・ITをはじめとする幅広い業界のリーディングカンパニーや中央省庁へのAI活用支援に従事。新規事業創出から業務効率化、社内活用推進に向けた組織変革まで、様々なテーマで戦略策定から現場実装まで一貫して支援してきた豊富な実績と知見を有する。

その後、生成AI活用に特化したコンサルティングファームである株式会社AlgoXを創業し、企業のAI活用を支援するコンサルティング・システム開発・人材育成事業を展開し、その支援実績は100社を超える。

ChatGPT登場前から一貫して企業のAI活用を支援し続けてきた経験に基づき、「成功する企業のAI活用には、再現可能なセオリーが存在する」という考えを起点に、各社の経営・組織・業務課題に寄り添ったオーダーメイドでの伴走支援を得意とする。

また、コンサルティングの現場で培った実践的な知見をもとに、経営層向けのAI活用戦略から日々の業務で使えるAI活用ノウハウまで幅広いテーマで、メディアや講演を通じて積極的に発信している。

AlgoX HP : <https://algox.co.jp/>

X : https://x.com/tkm_nishimoto

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 8,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、デザイン・グラフィック関連の書籍ブランド「MdN」、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT・デザイン関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL : <https://www.impress.co.jp/>